

在宅生活で抱える排泄問題

○畠山光代 加藤葉子
渡辺康介 早川由佳理
西島篤 佐藤勇樹

有限会社 在宅支援チームフォーレスト
フォーレスト在宅支援ステーション
フォーレスト訪問看護ステーション
フォーレスト居宅介護支援事業所
フォーレスト福祉用具貸与事業所

I はじめに

「在宅医療の推進」 「入院期間の短縮化」



在宅生活への移行 = その人らしい生活の実現
+
大きな介護負担 = 生活の質の低下

排泄行為

《介護負担の中で大きな割合を占める》

- 羞恥心を伴う行為
- 個人のペースがある
- 社会参加への弊害

Ⅱ 目的

- 生活の中で排泄行為が、どの様に問題になっているかを明らかにする

Ⅲ 研究方法

- 期間

H18. 3～H18. 6（4ヶ月間）

- 研究対象

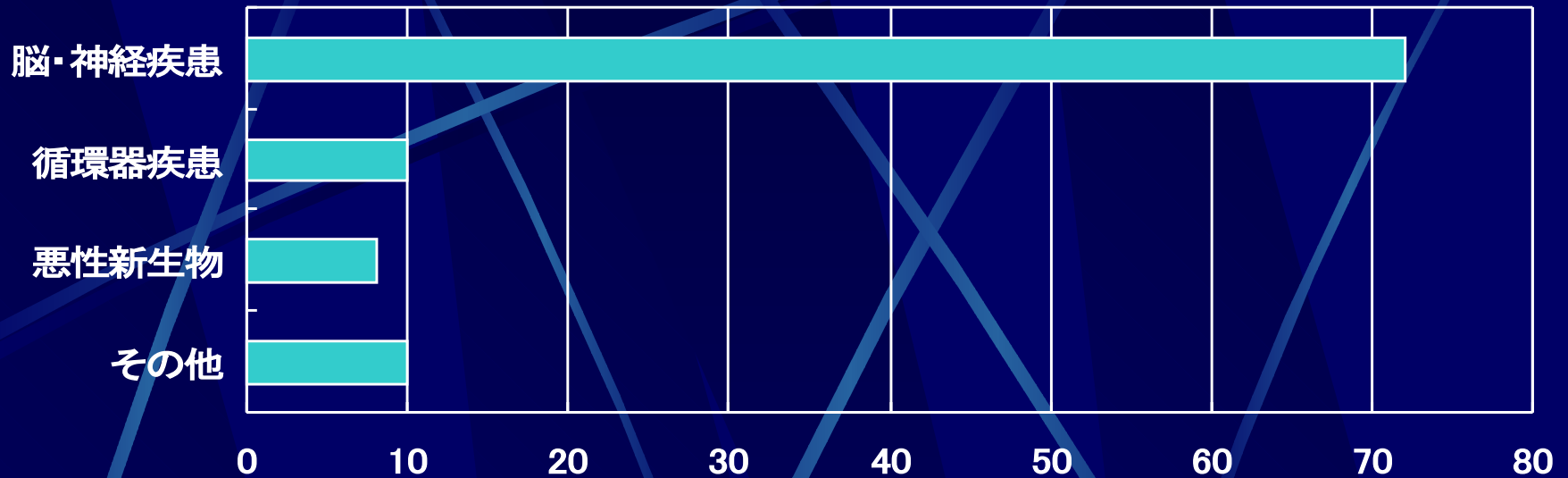
訪問看護開始1ヶ月以内のケース

男性24名 女性24名とその主な介護者

利用者平均年齢71.9歳

65歳以上の介護者45%

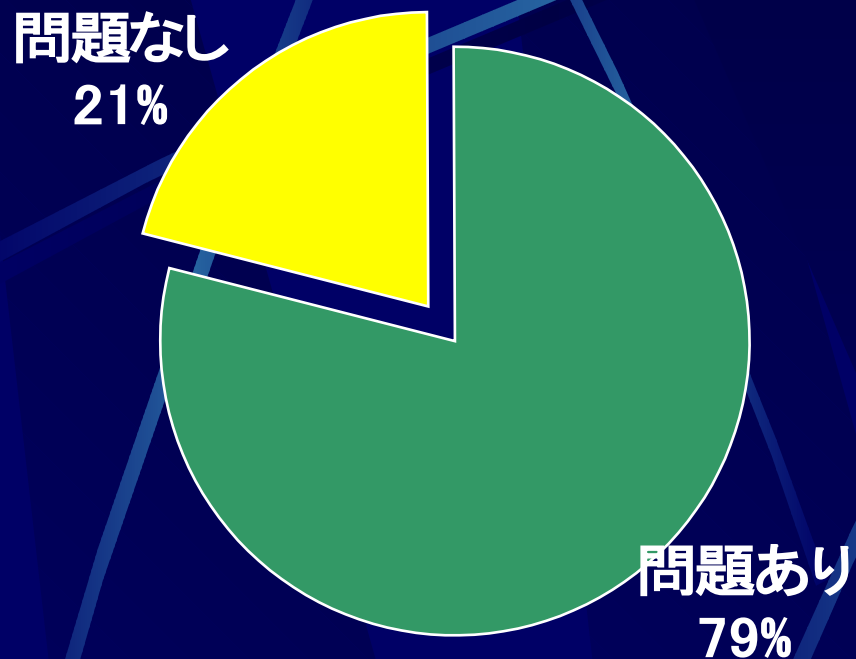
利用者の主な疾患



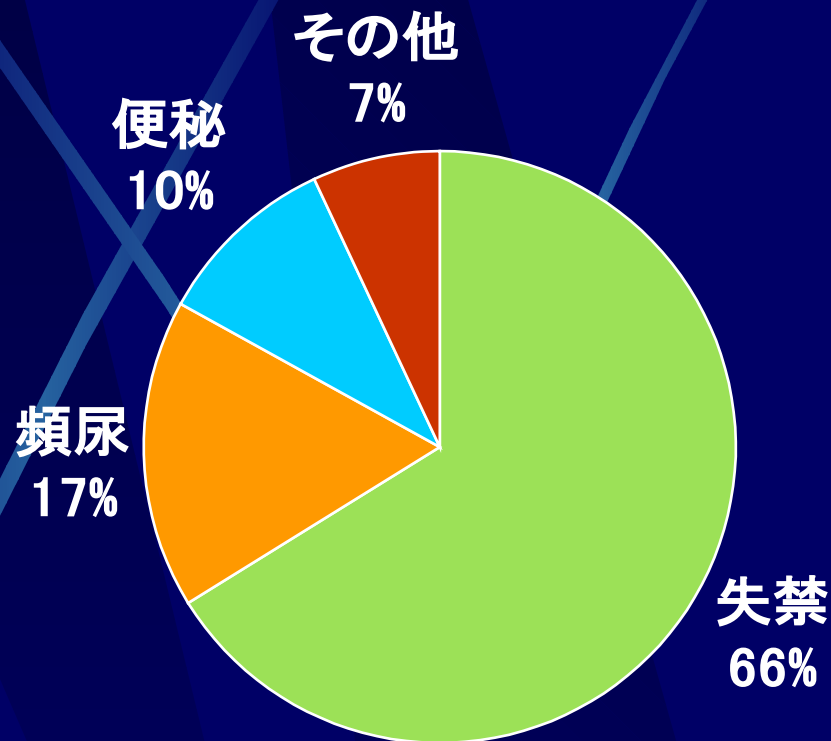
● 研究方法

- ① 看護師による聞き取り調査を行う
- ② アセスメントシート(日本コンチネンス協会作成)を活用し情報整理

IV 結果



排泄が問題となっている



問題の内容

排泄問題が生活の中心になっている現状があった



問題点

- 失禁に対して、対応策を知らない
- 羞恥心、あきらめから周囲に相談できない



- 365日、24時間の問題を本人と家族で抱える現状

V 考察

『悪循環』の原因

- 排泄状況に合わない選択
- 予防のためのオムツ

対策

- 生活にあった個別対応
- 継続したアプローチ
- 相談しやすい環境



● 多職種が専門性を出し合い
チームで取り組み生活を支える



Ⅵ おわりに

排泄問題の改善から他の問題も解決の可能性

《今後の課題》

- 誰にも相談できない状況下にならない支援
- 生活の再構築の実現

現在の取り組み

～排泄相談訪問～

